

# 南極から附中へ

## 南極観測隊員のつぶやき

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校  
校長通信 第22号 令和2年5月19日



### ○南極に挑戦した観測船たち

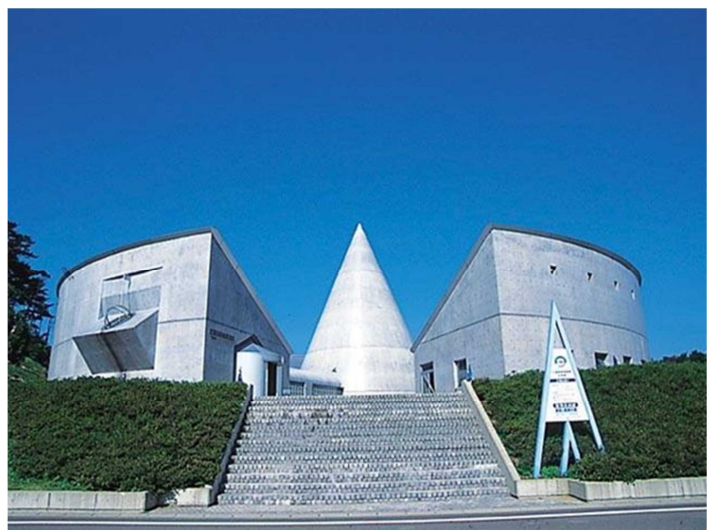
・これまでに南極観測で使用された船を紹介します。順番に白瀬矗が探検で使用した「開南丸」。南極観測が始まって、1957年～1962年まで使用した「宗谷」、1965年～1983年まで使用した「ふじ」、1983年～2008年まで使用した「しらせ」があります。現役の観測船も先代と同じ船名の「しらせ」です。

・「開南丸」は、レプリカですが、白瀬矗が生まれた秋田県にかほ市にある白瀬南極探検隊記念館にあります。港内で使用する小さなエンジンが付いている木造の帆船です。「開南丸」との命名は、東郷平八郎によってなされています。大きさは、全長約30メートル、幅約8メートルなので、全長は附中の25メートルプールより少し長く、幅は3コースぐらいの小さな船だったようです。購入資金等の調達には、大隈重信が貢献しています。

・1910年に隊員26名を乗せて東京芝浦港を出るも海氷のため南極大陸には近づけず、約1年間、オーストラリアのシドニーに停泊しています。1911年12月にシドニーを出港し、1912年の競争へつながります。「開南丸」が南極大陸へ着いた場所周辺には、当時の功績から白瀬海岸・大隈湾と地名が付けられています。1912年6月に無事、東京芝浦に帰港しています。



<「開南丸」白瀬南極探検隊記念館>



<秋田県にかほ市 白瀬南極探検隊記念館>